

平成 20 年  
8 月 28 日

# 病害虫発生予報 9 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目次 >

### . 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

ダイズ：紫斑病	1
サツマイモ：ナカジロシタバ	1
ナシ：ナシヒメシンクイ，黒星病	2
果樹共通：カメムシ類	2
抑制キュウリ：コナジラミ類	3
秋冬ネギ：ネギアザミウマ	3

【その他の病害虫】	4
ダイズ，ナシ，ブドウ，カキ，クリ，抑制ピーマン，抑制トマト，抑制キュウリ， 夏秋ナス，共通害虫，アブラナ科野菜共通	

### . 病害虫ミニ情報

ハスモンヨトウの薬剤感受性について	6
-------------------	---

. 今月の気象予報	8
-----------	---

. テレホンサービス	8
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 8 月 6 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」  
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ダイズ

1. 紫斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

開花期以降の8月中、下旬に降雨が続き、発生を助長する条件であった。

気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると発生が多くなるので注意する。

防除適期は、開花20日後である。連続した降雨が続く場合は、開花30日後に追加防除を行う。なお、県内では、チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため、防除の際はチオファネートメチル剤以外の薬剤を使用する。また、新たな薬剤耐性菌の出現を回避するため、2回目の防除を行う際は系統の異なる薬剤を散布する。

薬剤散布の際は、莢まで薬液がかかるように丁寧に散布する。

明きょを点検し、排水対策に努める。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

8月下旬～9月中旬に圃場での発生の様子をよく観察し、若齢～中齢の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期）に、早めに薬剤散布を行う。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、薬剤を適期に散布することで、十分な効果が得られる。なお、IGR剤（ノーモルト乳剤、マッチ乳剤）は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかるので、早めに散布する。（病害虫情報 8参照）

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い~多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

8月下旬現在，幸水での被害果は平年よりやや多い。  
 県予察ほ場（笠間市，園芸研究所）に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ成虫の誘殺数は，平年より多い。また，地区予察ほ場（小美玉市，石岡市，土浦市）に設置したフェロモントラップのうち，石岡市における誘殺数は平年より多い。

[ 防除上注意すべき事項 ]

晩生品種での被害が大きい第3世代成虫の発生ピークは8月6半旬頃と予想されるので，防除は，9月上旬までに行う。  
 幸水で被害がみられた園では，晩生品種を対象とした防除を必ず行う。  
 収穫前日数に十分注意して薬剤を選択する。散布の際は10a当たり300ℓを目安に，散布圧および散布速度を調節し，縦横の井桁走行を行うなど，かけむらのないよう丁寧に行う。その際，周囲への飛散（ドリフト）には十分注意する。  
 被害果は，速やかに水に浸漬するか，土中深く埋める。

ナシの黒星病について  
 8月下旬現在，発病葉率は平年より高い状況です。現在の発生は，来年の発生源となる芽基部への感染を助長し，来年の多発生につながる恐れがあります。  
 黒星病を対象とした「収穫後防除」を確実に実施しましょう！

果樹共通

1. カメムシ類

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

8月下旬に果樹地帯のヒノキにおける発生状況を調査したところ，果樹カメムシ類の生息密度は高くなっている。発生の主体は幼虫であるが，9月上旬~中旬にはこれらが成虫となる。ヒノキ球果の吸汁痕数は増加しており，9月上旬にはヒノキから離脱しはじめ，9月中旬~下旬には果樹園への飛来量が多くなると予想される。  
 9月以降の収穫となるカキ，リンゴや晩生のナシでは園内の発生に十分な注意が必要である。

(果樹共通 カメムシ類続き)

[ 防除上注意すべき事項 ]

夜温が高いと活動が盛んになり、果樹園へ飛来するので、このような場合は発生に注意して、園をよくみまわる。果樹園内でカメムシ類の発生を確認した場合には、収穫前日数に注意して、薬剤防除を行う。

薬剤防除は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

カメムシ類は薬剤抵抗性が確認されておらず、各薬剤とも十分な効果が期待できるが、合成ピレスロイド系薬剤は天敵類に及ぼす影響が大きいので多用は避ける。

薬剤を散布する場合は、農薬のラベルに書いてある農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意する。

抑制キュウリ

1. コナジラミ類

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

8月下旬現在、寄生葉率、発生地点率とも平年より高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、ハウス内は発生をやや助長する温度条件となる。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難となるため、初期防除を中心に防除する。またオンシツコナジラミは黄化病を媒介するので注意する。

コナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はコナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い~多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

8月下旬現在、発生地点率は平年並であるが、被害度はやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

高温乾燥条件が続くと増殖がさかんとするため、発生状況に応じて薬剤散布を行う。

雑草はネギアザミウマの生息場所となるため、圃場周辺の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	ウコンノメイガ	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
ナシ	ナシチビガ	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
ブドウ (露地巨峰)	べと病	発生量：やや多い ～多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生であるが，8月下旬は降雨が多く，発生を助長する条件であった。発生が多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	褐斑病	発生量：やや多い	8月下旬現在，発病葉率は平年並であるが，8月下旬は降雨が多く，発生を助長する条件であった。発生が多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
クリ	炭そ病 (実炭そ病)	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
抑制ピーマン	タバココナジ ラミ類	発生量：多い	8月下旬現在，幼虫の平均寄生葉率は過去4年中最も高い。
	ヒラズハナア ザミウマ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年並からやや多い発生である。向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、ハウス内は発生をやや助長する温度条件となる。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制トマト	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，ヒラズハナアザミウマで平年並からやや多く，ミカンキイロアザミウマで平年並の発生である。本虫は黄化えそ病を媒介するので注意する。
	タバココナジ ラミ類	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
抑制キュウリ	ハモグリバエ類	発生量：多い	8月下旬現在，多い発生である。
	ミナミキイロアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、ハウス内は発生をやや助長する温度条件となる。
	ミカンキイロアザミウマ		
夏秋ナス	ミカンキイロアザミウマ	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
	マメハモグリバエ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並からやや多い発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	8月下旬現在，フェロモントラップ（筑西市，龍ヶ崎市，土浦市，鉾田市）への誘殺数は平年並である。
	オオタバコガ	発生量：平年並	8月下旬現在，フェロモントラップ（水戸市，筑西市，龍ヶ崎市，土浦市，鉾田市）への誘殺数は平年並である。
野菜共通 アブラナ科	ハイマダラノメイガ	発生量：平年並	8月下旬現在，笠間市の誘致植物（クレオメ）の発生時期，寄生株率は平年並である。
	コナガ	発生量：少ない	8月下旬現在，フェロモントラップ（八千代町）への誘殺数は平年より少ない発生である。

## ハスモンヨトウの薬剤感受性について

ハスモンヨトウの幼虫は広食性で、野菜やダイズ、花きなど様々な種類の農作物を加害し、問題となります。また、薬剤の殺虫効果が低下しやすく、すでに多くの薬剤に対して抵抗性の発達した個体が発生しています。そこで、主要な薬剤の殺虫効果を確認するため、葉片浸漬法により、薬剤に対する感受性を平成19年10月に検定しました。なお、検定には3齢幼虫を用いました。

### 【結果の概要】

供試薬剤および採取地点ごとの補正死虫率を表1、2に示しました。

- (1) アファーム乳剤、コテツフロアブル、プレオフロアブルの補正死虫率は、処理4日後には全ての地点で100%となり、高い殺虫効果が認められました(表1)。
- (2) IGR剤は遅効性薬剤ですが、処理7日後になると、すべての剤で高い殺虫効果が認められました(表2)。なお、ファルコンフロアブル、マトリックフロアブルは処理4日後でも高い殺虫効果を示しました(表1)。
- (3) トルネードフロアブルの補正死虫率は、処理4日後では地点によっては低く(表1)、処理7日後になると78~100%(平均88%)と比較的高くなりました(表2)。
- (4) オルトラン水和剤、エルサン乳剤、トレボン乳剤、ラービフロアブル、フローバックDFの補正死虫率は、処理7日後でも地点によって低く、ばらつきが認められました(表2)。

以上の結果から、ハスモンヨトウに対しては、アファーム乳剤、コテツフロアブル、プレオフロアブル、ファルコンフロアブル、マトリックフロアブル、アタブロン乳剤、ノーモルト乳剤またはマッチ乳剤を防除体系に組み入れることが有効と考えられます。

表1 ハスモンヨトウ3齢幼虫の補正死虫率(処理4日後)

系統名	農薬名	希釈 倍数	補正死虫率(%)				平均値
			地点	地点	地点	地点	
有機リン系剤	オルトラン水和剤	1,000	16	85	76	52	57
	エルサン乳剤	1,000	22	100	100	91	78
合成ピレスロイド剤	トレボン乳剤	1,000	67	100	96	8	68
カーバメート系剤	ラービフロアブル	1,000	29	79	97	89	74
BT剤	フローバックDF	1,000	97	93	46	19	64
	マトリックフロアブル	2,000	85	100	100	86	93
IGR剤	アタブロン乳剤	2,000	71	96	33	92	73
	ノーモルト乳剤	2,000	88	100	61	100	87
	マッチ乳剤	3,000	79	88	69	78	79
	ファルコンフロアブル	4,000	100	100	100	93	98
その他	アファーム乳剤	1,000	100	100	100	100	100
		2,000	100	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	100	100	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000	32	100	100	83	79
	プレオフロアブル	1,000	100	100	100	100	100

1) 補正死虫率(%) = {(対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / 対照区生存虫率} × 100

2) 苦悶虫は死虫とした。

表2 ハスモンヨトウ 3 齢幼虫の補正死虫率（処理 7 日後）

系 統 名	農薬名	希釈 倍数	補 正 死 虫 率 ( % )			
			地点	地点	地点	平均値
有機リン系剤	オルトラン水和剤	1,000	71	92	57	73
	エルサン乳剤	1,000	26	100	91	72
合成ピレスロイド <sup>*</sup> 剤	トレボン乳剤	1,000	73	96	3	57
カーバメート系剤	ラービンフロアブル	1,000	43	96	88	76
B T 剤	フローバックDF	1,000	100	100	53	84
	マトリックフロアブル	2,000	95	100	92	96
	アタブロン乳剤	2,000	100	100	96	99
I G R 剤	ノーモルト乳剤	2,000	100	100	100	100
	マッチ乳剤	3,000	100	100	100	100
	ファルコンフロアブル	4,000	100	100	100	100
	アファーム乳剤	1,000	100	100	100	100
その他		2,000	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	100	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000	78	100	85	88
	プレオフロアブル	1,000	100	100	100	100

- 1) 補正死虫率 (%) = { ( 対照区生存虫率 - 処理区生存虫率 ) / 対照区生存虫率 } × 100
- 2) 苦悶虫は死虫とした。
- 3) 地点 については、処理 7 日後の対照区における生存虫率が低かったためデータを棄却した。

供試薬剤は、一部の作物でハスモンヨトウに平成 20 年 8 月 6 日現在登録があるものです。作物登録の有無及び使用方法は作物によって異なりますので、薬剤防除を行う際は必ず登録内容を確認してください。

【防除上の注意点】

- ( 1 ) ハスモンヨトウの幼虫は、齢期が進むにしたがって薬剤に対する感受性が低下する傾向があるため、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行ってください。
- ( 2 ) ハスモンヨトウの薬剤感受性は圃場によって異なるため、薬剤散布後には効果の確認を行い、効果が劣る場合は、その後の防除では系統の異なる薬剤を選択してください。

ハスモンヨトウの防除に際してこの記事を参考にする場合には、薬剤の適用内容（作物名、希釈倍数、使用時期、使用回数等）をご自身でよく確認してから、購入・使用して下さい。



・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月23日から9月22日)

気象庁(8月22日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

< 1週目の予報 > 8月23日(土曜日)から8月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低いまたは平年並の確率ともに40%

< 2週目の予報 > 8月30日(土曜日)から9月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

< 3週目から4週目の予報 > 9月6日(土曜日)から9月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病虫害の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

9月上旬 果樹病虫害の収穫後防除について

9月下旬 施設野菜および露地野菜病虫害の発生現況と防除対策について

**農薬を使用する際は**

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。